

令和4年度 立川市立立川第八中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 命を大切にすることを人 ○ 「知恵」を身につけ活かせる人
---------	---

生徒に育成を目指す資質・能力	教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自尊感情を高めるとともに自他の生命尊重、思いやりの行動を実践できる生徒 ○ 自ら主体的に学ぶ意欲と確かな学力をもった生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な知識や技能の習得・定着をさせる学習活動を通じた基礎学力の向上と、主体的・対話的で深い学びを通じた思考力や判断力、表現力等の育成 ・ 「学習のねらい」「授業の見通し」「振り返り」を明確にして一単位時間における学びの質を高める習得・活用・探究を目指した授業づくり ・ G I G Aスクール構想に基づく一人1台タブレットPCの活用を通じた生徒一人一人のニーズに合った指導

教科	生徒の実態を踏まえた教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した漢字や、文法の知識を、文章や言葉遣いなど、日々の生活の中に活用していく能力。 ○ 文章の読解において、内容を読み取り、適切な言葉で文章の構成や要旨を表現することができる能力。 ○ 言葉の特徴や表現技法を踏まえ、自らの考えを分かりやすい文章構成で表現する能力。 ○ お互いの立場や考え方を尊重し、他者の考えを踏まえた上で、自らの考えを深められる能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストや作文、スピーチ発表などを定期的に行うことで自主的な学習を促し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・ 単元を通して何を身に付けるかを明確に示し、見通しをもちながら学習に取り組ませる。 ・ 読み取った内容から要旨をまとめる活動や、根拠を明確にした意見文を書く活動などの学習を設定し、思考力や表現力の向上を促す。 ・ デジタル教科書の活用やグループ学習、文章の読み合いを通して、他者の考えと自身の考えを比較する場を設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象等の理解の定着を図るとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能。 ○ 公民としての資質・能力の基礎を身につけ、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題を把握し、見通しをもつことができるよう ICT 機器の活用や、身近な社会的事象を取り上げ、動機付けにつなげる。 ・ 調べ学習や話し合い・討議等の対話的な学びから社会的事象を考察し、問題解決等を構想する指導を行う。 ・ 主体的な学びや多様な考えによる学び合いから構想を個々に言語化できるよう指導の充実を図り、深い学びへとつなげる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能。 ○ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力。 ○ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な技能を学ぶ際、その手続きの基礎に概念や原理法則がある事、それらを上手く使って数学的な処理が考え出される事を理解させる。 ・ 直観的・帰納的・類推的に推論する力を養うとともに、得られた結果を条件や仮定に即して考察させる。 ・ 問題解決の過程を振り返り、数学的な表現を自立的・協働的に修正・改善し、議論の前提を明確にししながら問題の特徴や本質を捉えさせるようにする。 ・ デジタル教科書の活用などの自立的・協働的な活動を通して、その過程で様々な工夫・驚き・感動を味わい、数学を学ぶことの面白さ、考えることの楽しさを味わえるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能。 ○ 観察・実験などを行い、科学的に探究する能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの小テストなどを増やし、復習する機会をつくる。 ・ 観察、実験などの際、状況に応じて少人数のグループで行わせ、各自で体験した結果から考察、探究できるようにする。 ・ 互いの意見を交わしながら学ぶ機会や、ICT 機器の活用場面を増やす。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に対する感性を働かせ、どのように音楽で表すか創意工夫する能力。 ○音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見だし、音楽の特徴について、他者と共有・共感し、音楽に対する価値意識を広げていく能力。 ○音楽を通して、豊かで潤いのある人間関係を築く。 ○音や音楽を生活や社会に生かそうとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技においての基礎・基本を身に付けさせる。 ・ワークシートやICT機器の効果的な活用を図る。 ・グループワークで他者の意見を聞き、共有・共感できる活動を行う。 ・合唱活動では、リーダーを育成し、よい表現を皆で認め、歌いやすい環境作りをする。 ・授業を通して、お互いを認め合い、尊重しあえる場を作る。 ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値は何かなどを考え、深めさせる。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○制作を計画的に、効率よく進める能力。 ○与えられた課題に対して自分なりの主題を見出し、深い思考によって構想を練る能力。 ○技法を駆使し工夫することによって、より豊かな作品を表現する能力。 ○作品の鑑賞において、芸術的な魅力や美しさを味わい、想像によって作者の意図や工夫を感じ取り、作品をより深く理解し楽しむ能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に、板書の工夫や一人1台タブレットPCを活用し、生徒が時間ごとに目的意識をもって主体的に取り組めるように工夫する。 ・思考を深め、発想力を引き出すために、「言葉」による説明と画像、映像を駆使するだけでなく、「対話」によって互いの感性を刺激し合えるような授業展開を行う。 ・机間指導により、制作が技術的に適切に行われているか注視すると共に、必要に応じて、随時、要点を押さえたり、工夫している生徒作品を鑑賞し合うことで向上心をもてるようにする。 ・鑑賞時に、状況に応じて多様な切り口を工夫して提示し、生徒が興味関心をもてるように工夫すると共に、「対話」によって、様々な価値観を共有できるようにする。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ○各種の運動の特性や魅力の理解と、体力の向上。 ○運動や健康について自己の課題を発見し、その解決に向けて思考、実践する力および自分の考えを他者に伝える力。 ○集団活動や身体表現を通して、コミュニケーション能力や多様性を認める態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に応じた場を複数設け、自己に適した活動に取り組みさせることで達成感を味わわせる。 ・自己や他者について考えたり、その考えを伝えたりするために、ICT機器の活用やグループ学習を行う。また、学習カードに毎時の振り返りを記入させることで、自己の考えを整理できるようにする。 ・グルーピングやルールを工夫し、多様性について考える機会をつくることで、コミュニケーション能力等の向上を図る。
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や家庭、衣食住、消費や環境、社会における事象についても考え、互いに協力して安全に工夫して生活できる能力。 ○持続可能な社会を構築していく心や態度。 ○生活や社会の中から問題を見だし、解決策を考える能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや大型モニターなどのICT機器を活用した授業を多く行う。 ・実習・作業を多く取り入れることで生徒が主体的に考える機会をもてる授業展開を行う。 ・グループワークを取り入れ、発表会などから仲間の意見・考え・作品から学び、自分の生活に取り入れる。 ・学習した内容が家庭で生かせるような課題を出し、知識・技能の定着を図り生活を改善、工夫する力を養う。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションによって活用できる技能。 ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力。 ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用できる語彙を増やすために、フラッシュカードを使った導入から、ペアでの発音練習、繰り返しの単語テスト、復習テスト等に取り組みさせる。 ・既習事項を繰り返し復習することで、さらなる定着を図る。 ・デジタル教科書の映像や写真などを使い、目標表現がどのような場面・文脈で使用されるのかを例示しながら、実際のコミュニケーションで活用させる。